

ジャーナル・コンサルティング 専門ブランド Seekl 誕生!!

Seekl
ジャーナルコンサルティング



このたび杏林舎ではジャーナル・コンサルティング専門ブランド「Seekl (シークル)」の提供を開始させていただくことになりましたので、ここにご案内申し上げます。

杏林舎では、これまで数多くのジャーナル運営をサポートし、ジャーナルの持つあらゆる課題を解決してきました。ジャーナルが直面する課題にひとつひとつ対応していくなかで蓄積された断片的なノウハウを整理し、体系化することで、より多くのジャーナルにフィットする「ジャーナル・コンサルティング」へと進化させました。

わたしたちが約束すること

- ジャーナルのあり方を共に考えること
- 世界の学術出版におけるトレンドを把握し、適切な形で提供すること
- ジャーナルの質と価値を向上させること

数多くのジャーナルをサポートする中で、わたしたちは一つの問題に気が付きました。それは学術出版やジャーナル運営について相談できるコンサルタントが国内にはほとんどおらず、包括的な情報を手に入れる手段がないということです。そのため「〇〇という雑誌ではこうやっていた」という断片的な情報を基にジャーナルの方針を決定し、結果として国際基準からは少し外れた運用がなされていることがほとんどでした。

このような状況においてお客様へ適切なサービスを提供するためにわたしたちは積極的な情報収集に努めてきました。国際的な学術出版カンファレンスや学術編集者向けセミナーへの参加を通じて最新の知見を習得し続けると共に、海外出版社や学術コンサルティング会社とのネットワークを築くことで、ジャーナル出版の国際基準への理解を深めてきました。

ジャーナル運営のプロフェッショナルとして数々のジャーナルの飛躍をサポートする中で培ったノウハウをもとに、日本国内の全てのジャーナルの質と価値の向上をミッションとするコンサルタントチーム「Seekl」を立ち上げました。

『Seeklは世界水準のジャーナル運営を実現するためのコンサルティング・サービスを提供します。』

Seeklのジャーナル・コンサルティングは、ジャーナルの抱える課題の発見から目標の設定、達成までのすべての道のりを、経験豊富なコンサルタントが共に歩みサポートします。新規創刊から編集・出版体制の強化、国際データベースへの掲載やジャーナル・インパクトの向上まで、ジャーナル運営に関わる課題解決・サポートを通じて「世界水準のジャーナル運営」を実現します。

サービスの特徴

①学術出版に精通した編集事務コンサルティング・チームによるプロジェクト実行

杏林舎ではこれまで70年以上にわたって国内学協会のジャーナル出版をサポートしてきました。またCSEやISMTEといった学術出版における国際的な編集者会議にも出席し、海外の最新トレンドの把握に努めています。こうして蓄積したノウハウを元に、Seeklでは経験豊富なコンサルタントがお客様の課題解決に向けたプロジェクトを実行していきます。またチーム制を用いることで主担当者不在の場合にもお客様とのコンタクトが取れる体制を作っています。

②ジャーナルの予算や状況に合わせたオーダーメイドプラン

目標は同じであってもジャーナルの状態によって目標達成までの道のりは大きく変わります。Seeklのコンサルティン

グではヒアリングや初期調査を通じてジャーナルの状態をチェックし、無理なく目標を達成できるようオーダーメイドのコンサルティングプランを作成します。

③課題の発見から解決、目標達成までをサポート

Seeklではジャーナル・インパクトファクターの取得といった明確なゴールに向けたコンサルティングはもちろん、隠れた課題の発見を目的とした「ジャーナル診断」というサービスも提供しています。コンサルティングというと少し身構えてしまうかもしれませんが、ジャーナル診断であれば低価格でジャーナルの隠れた課題を整理することができます。

④最新の国際基準にキャッチアップ、タイムリーに情報共有

Seeklでは常に学術出版に関する最新情報を収集し、サービスに還元しています。また、学術出版に関する豆知識から

最新のトレンド変化までメールマガジンやブログ等を通じて積極的に発信しています。

⑤ジャーナル創刊からジャーナル・インパクトファクターの取得、向上まで実績多数

ブランドとしては新米ですが、杏林舎としてはこれまで70年以上にわたって国内の50誌以上のジャーナル運営をサポートしています。年間投稿数も10編程度から1,000編を超えるジャーナルまで幅広く対応しています。またジャーナルの創刊からPMCやScopusといった著

名なデータベースへの掲載、Journal Impact Factorの取得、投稿規程のアップデート、ジャーナルの広報などジャーナルの運用に関わるあらゆるサービスをご用意しております。

編集事務を承る会社はいくつもありますが、ジャーナル専門のコンサルティングを提供できるのは国内でSeeklのみです。Seeklのコンサルティングプランは、さまざまな角度からジャーナルを分析し、これらのサポートを組合せ、オーダーメイドで設計いたしますので、皆様のジャーナルにぴったりと合うプランをご案内できます。

Seeklのコンサルティング・サービス一覧

- ジャーナル診断
- ジャーナル・インパクトファクター取得コンサルティング
- 国際データベース掲載コンサルティング
- ジャーナル創刊コンサルティング
- コンサルティング型 Editorial Office
- 広報コンサルティング
- オープンアクセス化コンサルティング
- 投稿フロー改善コンサルティング
- 国際標準アップデートサポート
- オンライン化・ペーパーレス化コンサルティング
- ジャーナル・インパクト分析
- 編集委員会アドバイザー
- ジャーナルベンチマーキング

コンサルティングの流れ

1. 分析・課題の整理

ジャーナルの状況を細かく分析調査し、ジャーナルが持つ課題、問題を洗い出します。何がボトルネックになっているのか、ジャーナルにとって何が必要なのか。それぞれのジャーナルの個性を把握することで、ジャーナルが向かうべき方向が見えてきます。

2. 目標の設定

ヒアリング等を通じた要望とジャーナルの分析結果をもとに、お客様と一緒に目標を考え、コンサルティングプランを

設計し、目標達成までのロードマップを作成します。

3. 戦略立案

ロードマップを元に実行性の高いアクションプランを設定し、Seeklが課題解決を強力にサポートします。

4. 進捗マネジメント

課題への取り組み状況をモニターし、必要に応じてアクションプランに調整を加えながら、確実なプロジェクトの実行を管理します。

5. 目標達成!

Seeklは、それぞれのジャーナルの状況に併せて個別にプランを設計できることが最大の強みです。サービスリストに無いお悩みもお気軽にご相談ください。Seeklを末永くご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

御相談はWebサイトのお問い合わせフォームあるいは下記連絡先よりお気軽にご連絡ください。

Seekl
ジャーナルコンサルティング

お問い合わせ 03-3918-5005 (直通)
info@seekl.jp



https://seekl.jp/



昨年のトロントに続いて今年はアメリカ・オレゴン州のポートランドにてCSE (Council of Scientific Editors: 科学編集者会議) の年次カンファレンスが開催され、杏林舎からも例年通りスタッフが参加しました。

例年通り、今回も数々の発表セッションがありましたが、その中でも特に「AI」と「Paper Mil (論文工場)」が興味深く、また話題のトピックでしたので、その2つにて報告します。

生成AIの学術論文における利用

驚異的なスピードで進化を続ける生成AIの学術論文における利用は誰もが興味を持っていたと思われ、会場には座れない方々がでる程に人気のセッションでした。講演者はAIプログラムの開発者や編集事務局担当者など複数の方々、それぞれの立場から生成AIの利用について発表を行いました。

聴講側として興味深かったのは、1年前は学術論文に生成AIは「使うべきではない」という議論から、既に「どのように使えるか？ または使うべきか？」という議論に進んでいることです。この違いからも生成AIは単なる新しいプログラムから、汎用性、利便性、そして可能性に満ちたプログラムである事がうかがえます。

AIには様々な種類が存在しますが、生成AIとは異なる「自動機会学習」を活用したAIプログラムでは、フィードされたデータはアルゴリズムの改善に使用され、論文のデータはデータベースから削除される事が多いので、その様な方法であれば学術的には利用に問題はありません。しかし、人間がデータをフィードする事でパターンの理解が発生するため、開発に時間を要し、新しいものの生成には向いていない、という傾向があります。そ

れに対して生成AIはオンライン上のあらゆるデータを瞬時に取込むため、論文の執筆から、データ分析や査読まで幅広い過程において使えてしまいます。

しかし生成AIはまだ開発初期の技術であり、可能性と同じくらいにリスクは未知数だという意見も多く、また学術における守秘義務、著作権、信用性、誠実さに問題があります。よって現時点ではICMJ Eの規定にある

ように、利用に制限が設けられるべきである、との意見と同時に、今後2-3年程度でこれらの問題をクリアしたツールが開発される、との意見が出ていました。

また別のプレゼンターも「ジャーナル側がどれだけ規制をしたとしても、著者の利用を禁止することは現実的ではない。生成AIの利用は時代の流れに逆行しているため完全規制ではなく、ICMJ Eのとおり、利用の開示を義務付ける、という方法でコントロールした方が著者のメリットが大きい」、と発言し聴講者の方々は頷いていました。

暗躍するPaper Mills

AIに加えて大きなトピックとして取り上げられていたのは「論文の不正」です。研究者は常に“Publish or Perish”というプレッシャー下にあり、年々競争の度合いが増す中において、不正と言うのは無くなっていません。また、不正も巧妙化しており、常にイタチごっこの状態が続いています。

特に数年前に話題になったPaper Millsは勢いを落とすことなく、相変わらず暗躍しているようです。

Paper Millsとはその名の通り『論文工場』です。研究を行わずに書かれている研究論文です。実在する著名な研究施設を記載し、研究の手法やデータなども含まれており。一見すると通常の研究論



文と遜色の無い内容です。しかしPaper Millsの論文は①捏造されたデータで辻褄が合わない、②他の論文の画像を利用、③1つの研究結果を元に複数の論文が書かれている、などの特徴があります。

また投稿時の査読者の提案においても、実在する著名研究者を査読者候補として挙げ、メールアドレスも候補者の名前を含んだアドレスを偽造し、自分(またはPaper Mills)に査読依頼が届き、査読も自分やPaper Millsが行いAcceptに導くケースが多い様です。また、より巧みなケースでは編集委員とPaper Millsが裏で手を組んで、査読を優遇していた、というケースも共有されていました。

同席していたあるジャーナルでは、ある日から投稿数が爆発的に増え、その原因を調べた結果、掲載論文の1つがPaper Mill論文である事が判明し、その論文の採択日と投稿数の増加開始日が一致していたそうです。Paper Millは1つの論文が採択されると「査読が甘いジャーナル」と判断し、ターゲットにしています。

この例から鑑みると、日本のジャーナ

ルもすでにターゲットになっている事が十分に予想されます。同じ地域からの投稿が増えた、または同じ領域からの同じ様な研究結果が増えた、と言う場合はPaper Millsを疑う必要があります。また発見した場合はCOPEのフローに則って著者に説明を求めたり、研究施設への報告などが必要になります。

現時点ではこれらの検知システムは開発されておらず、EditorやReviewerによる査読で見抜く必要があります。将来的には、Paper Mil 1の検知にAIによる分析が活躍するかもしれませんが、それはまだ先の事と思われます。

Paper Millsは研究者の「1つでも多くの論文発表実績が欲しい」研究者に付け込んで、捏造した論文を販売するという悪事を働いています。しかし、研究者は一度でもPapers Millsに手を出してしまうと、「不正」としてRetractionが公開されることになり、キャリアに取り返しの付かないダメージを与えることになってしまいます。よって、ジャーナルの出版側だけではなく、研究者の皆さんへの注意喚起も必要だと考えます。

編集後記

今号は、弊社が新たにご提供を開始したサービス「Seekl」についてご紹介させていただきました。

弊社では長年、論文の投稿から公開までの学術出版の一連の流れにおける業務に深く携わってきた中で、様々な知識、知見、ノウハウを得てまいりました。それらの情報を社内のみでなく、学協会の皆様にも共有できるように体系化した上でアウトプットするサービスとしてこの度Seeklをリリースいたしました。本サービスについては、日本国内における慣習や環境も踏まえながら、国際標準となる海外のトレンドを取り込んで今後も成長させていきたいと考えています。

また、生成AIは昨今、あらゆる方面でその単語を目にするようになり、生産性向上や経済成長において大きな原動力としてインパクトを与え続けています。しかし、まだ発展途上の段階で未知の部分も多くあり、Paper Mills等、今後も新たな事案が発生するたびに学術業界において協議やルール決定が必要な場面が出てくるかと思われます。それらの対応についても時流によって変化していきますので、その都度最新の知見を収集して対応することが必要となるのではないかと思います。

S1M NEWS

2024年8月5日発行 第26号

発行	株式会社 杏林舎 〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10 Tel.03-3910-4311 Fax.03-3949-0230 https://www.kyorin.co.jp/
編集・制作・デザイン	株式会社 杏林舎
E-mail	s1-support@kyorin.co.jp

KaLibEL

eラーニングシステム

KaLibEL (カリベル) の機能紹介

第3回

専門医等の資格認定業務に最適な医学系学会向けeラーニングシステム「KaLibEL (カリベル)」について、オススメ機能をご紹介します。

多彩なログ (利用履歴) 情報の管理・活用

基本の受講ログだけでなく、以下のシステムログも管理画面から確認可能ですので、受講結果の分析ほか、ユーザーからの問い合わせに対応しやすい設計です。

アクティビティログ

ユーザーのログイン記録や各種操作履歴、使用している端末情報などを確認できます。

メール配信ログ

システムから送ったメールの内容、ユーザーの受信状況などを確認できます。不達の場合はそのまま管理画面より再送信が可能です。



KaLibELは、充実した管理機能と多彩なログ情報により、安心かつ円滑なeラーニング運営を可能にします。「eラーニングを始めたいがよくわからない」「担当者やユーザーの負担を少なくeラーニングを運用したい」といったご要望にも、十分なお打ち合わせをふまえてシステム構築いたしますので、ご安心ください。ご興味を持たれましたら、弊社担当までお気軽にご連絡ください。(kalibel_pr@kyorin.co.jp)